

# 事業所保存・閲覧用

(評価者の個人名は非公表とされており、保護者様・来訪者様等の  
閲覧用には、こちらの副本をご使用くださいますようお願いいたします)

## 東京都福祉サービス第三者評価(2025年度) 評価結果報告書

2026年4月1日

学校法人八幡学園  
認定こども園みずのとう 御中

〒 160-0023

所在地 東京都新宿区西新宿西新宿8-14-24  
西新宿KFビル702

評価機関名 特定非営利活動法人福祉総合評価機構

認証評価機関番号 機構 03

電話番号 03-6279-0331

代表者氏名 理事長 中込 重秋



以下のとおり評価を行いましたので、東京都福祉サービス評価推進機構に報告いたします。

評価者 (評価者養成講習修了者番号及び担当分野)	修了者番号		担当分野	
	①	H0303063	<input checked="" type="checkbox"/> 福祉	<input type="checkbox"/> 経営
	②	H0702006	<input checked="" type="checkbox"/> 福祉	<input checked="" type="checkbox"/> 経営
	③	H0404081	<input type="checkbox"/> 福祉	<input checked="" type="checkbox"/> 経営
	④	H0902065	<input checked="" type="checkbox"/> 福祉	<input checked="" type="checkbox"/> 経営
	⑤	H1001023	<input checked="" type="checkbox"/> 福祉	<input type="checkbox"/> 経営
	⑥		<input type="checkbox"/> 福祉	<input type="checkbox"/> 経営
福祉サービス種別	認定こども園			
評価対象事業所名称	認定こども園みずのとう			
事業所連絡先	〒	165-0022		
	所在地	東京都中野区江古田1-1-1		
	TEL	03-3953-4417		
事業所代表者氏名	関 政子			
契約日	2025年 11月 1日			
利用者調査票配布日(実施日)	2025年 12月 16日			
利用者調査結果報告日	2026年 3月 3日			
自己評価の調査票配布日	2025年 12月 16日			
自己評価結果報告日	2026年 3月 3日			
訪問調査日	2026年 3月 9日			
評価合議日	2026年 3月 9日			
コメント (利用者調査・事業評価の工夫点、補助者・専門家等の活用、第三者性確保のための措置などを記入)	・利用者調査は共通評価項目のほか、事業所と協議のうえ、独自の項目も設けて実施しました。 ・開始時には書面やポスター等で保護者の理解促進を図るほか、開始後にも提出御礼と未提出者への呼びかけを兼ねたチラシを全対象者に配信・配付し、必要に応じ提出期限を延長するなど、回答率向上にも努めました。 ・事業所に対しては、開始時の説明や補足資料の提供等により、第三者評価制度や評価項目・標準項目への理解を深めてもらうほか、職員層も標準項目単位で評価を行えるようにするなど、自己評価がよりの確なものとなるよう配慮しました。			

1	<p><b>理念・方針（関連 カテゴリー1 リーダーシップと意思決定）</b></p>
	<p>事業者が大切にしている考え（事業者の理念・ビジョン・使命など）のうち、特に重要なもの（上位5つ程度）を簡潔に記述 （関連 カテゴリー1 リーダーシップと意思決定）</p>
	<ul style="list-style-type: none"> <li>・日本古来の神社神道の精神に学び、感謝の気持ちと人の役に立つことを喜ぶ奉仕の心を育て、「健康な体とまろやかな心」を育むことを理念としています。</li> <li>・保護者の就労の有無に関わらず、本園の教育・保育を望む家庭に門戸を開き、家庭支援を行いながら子どもの最善の利益を第一に考える運営を大切にしています。</li> <li>・幼稚園の時間を社会の時間と捉え、子どもが自我を十分に発揮しながら仲間と関わり、思いやりや許し合う心を育むことを重視しています。</li> <li>・保育部門では保育者を多く配置し、一人ひとりが十分に愛されながら生活習慣を身につけられる家庭的な環境づくりを大切にしています。</li> <li>・子ども同士の遊びを中心とした主体的・対話的な生活の中で、気づき・考え・協同する力と自己肯定感が育つ保育を目指しています。</li> </ul>
2	<p><b>期待する職員像（関連 カテゴリー5 職員と組織の能力向上）</b></p>
	<p>(1)職員に求めている人材像や役割</p> <p>子ども一人ひとりを大切に、その育ちや思いに寄り添いながら、子ども同士の関わりを丁寧に支えることができる職員を求めています。また、常に研究心と向上心を持ち、研修や日々の実践を通して専門性を高め、保育の質の向上に努める姿勢を大切にしています。</p> <p>さらに、職員同士の協働を重視し、多様な同僚と互いに学び合いながら、謙虚に他者から学ぶ姿勢を持つことを期待しています。子どもの成長に関わる専門職として、生涯にわたり学び続ける意識を持つ職員であってほしいと考えています。</p>
	<p>(2)職員に期待すること(職員に持って欲しい使命感)</p> <p>職員には、子ども一人ひとりの人格と尊厳を大切にしながら保育にあたる使命感を持つことを期待しています。幼児期は生涯にわたる人格形成の基礎となる重要な時期であることを理解し、子どもが安心して自己を発揮できる環境を整えることが大切です。そのため、感情的に叱ることは避け、子どもが「自分は大切にされている」と感じられる温かなまなざしに関わることを心がけてほしいと考えています。</p> <p>また、業務上知り得た園児や家庭、職員に関する情報については守秘義務を徹底し、園外への持ち出しや漏えいを行わないなど、高い倫理観を持って職務にあたることを求めています。退職後においても同様の倫理意識を持ち続けることが必要であると考えています。</p>

調査対象	調査開始時点での当園の利用世帯162(在籍児童数182)を対象として実施した。なお、兄弟姉妹がいる世帯は1世帯として扱った。
調査方法	調査票及び調査項目は共通評価項目に準拠した。 回収は専用封筒を用い、回答者からの弊機関への直接郵送、または同方式と事業所内回収による未開封のままの弊機関への郵送の併用にて行った。 自由意見については回答者の匿名性に配慮し、表記の加工などの処理を適宜行った。
利用者総数	182
利用者家族総数(世帯)	162
共通評価項目による調査対象者数	162
共通評価項目による調査の有効回答者数	109
利用者家族総数に対する回答者割合(%)	67.3

## 利用者調査全体のコメント

総合的な満足度は「大変満足」46.8%・「満足」47.7%の計94.5%と高い値で、設問別でも「教育や発達に役立つ活動」「子どもの興味・関心の伸長」「食事」など、全18問中15問で80～90%台の高い支持を得ている。  
自由意見では「外遊びや制作など、自由に本人の気持ちを尊重して行ってくれ、自主性も育ちやすく、行事を通して子どもたちでの話し合いなども行われ、協調性も育める環境にある」「子どもの意志を尊重してくれ、季節のイベントや課外授業があり、園庭でたくさん運動できる」「一人ひとりの子どもに寄り添い、気持ちや行動を尊重したうえでその子に合った指導をしてくれ、保護者にも同じように寄り添い、困りごとも親身に考えてくれる」「芝生の上を裸足でかけ回れる環境や行事・イベントの工夫、季節や食、身体を動かすことなど、総合的にみて子どもに必要なことを学ぶ環境をつくってくれ、時に考えるよう促す姿勢もありがたい」などをはじめ、さまざまな称賛・感謝の声が寄せられている。  
要望などとして主に見られたのは、バザーをはじめとする保護者の就労・負担への配慮、保護者への情報発信や職員の体制、日常の教育・保育や行事、食事に関することなどである。

## 利用者調査結果

共通評価項目 コメント	実数			
	はい	どちらとも いえない	いいえ	無回答 非該当
1. 運動や休息の配分は、子どもの発達の状態や在園時間に応じて工夫されているか	88	16	5	0
実質的な満足度(「無回答・非該当」を除いた割合・以下同)は、「はい」が80.7%、「どちらともいえない」が14.7%、「いいえ」が4.6%となっている。 自由意見は10件で、「のびのびと過ごさせてもらっていると感じる」のほか、遊びの時間・内容等のさらなる充実を望む声などが寄せられている。				
2. 園での活動は、子どもの教育や心身の発達に役立っているか	108	1	0	0
「はい」が99.1%、「どちらともいえない」が0.9%となっている。 自由意見は5件で、「季節や行事イベントをたくさん採り入れてくれている」「季節の行事などが多く、役立っている」「イベントが豊富でよい」などのほか、活動内容等について、さらなる充実を望む声が見られている。				
3. 園での活動は、子どもが興味や関心を持って行えるようになっているか	104	4	0	1
「はい」が96.3%、「どちらともいえない」が3.7%となっている。 自由意見は3件で、「実際の活動を見ていないが、先生のお話を聞いていると工夫してくれていると思う」のほか、子どもの興味・関心の伸長、体操の時間の曜日の設定について、さらなる配慮を望む声が見られた。				

4. 提供される食事は、子どもの状況に配慮されているか	106	3	0	0
「はい」が97.2%、「どちらともいえない」が2.8%となっている。 自由意見は8件で、「温かい食事・安全安心・真心のこもった食事が提供されている」「さまざまな食材が提供されている」「給食が大変ありがたい」「食育の経験はなかなか家庭では難しく、とてもよい経験になっている」などのほか、メニュー・食材や食事の提供量について、気になる点や要望を挙げる声が見られた。				
5. 園の生活の中で、身近な自然や社会と十分関わっているか	101	5	0	3
「はい」が95.3%、「どちらともいえない」が4.7%となっている。 自由意見は2件で、「園庭が広いので問題ない」のほか、要望などとしては、戸外活動等の充実について、気になる点を挙げる声が見られた。				
6. 保育時間の変更が急ぎょ必要になった場合、開園時間内において、園の可能な限り、柔軟に対応されていると思うか	87	4	3	15
「はい」が92.6%、「どちらともいえない」が4.3%、「いいえ」が3.2%となっており、「はい」の値は前回(2022年度、74.6%)から改善されている。 自由意見は4件で、「得意先トラブルや渋滞によって遅くなりそうな時、柔軟に対応してくれている」「努力してくれていると感じる」のほか、お迎え時間や延長保育利用等について、より柔軟な対応を望む声が寄せられている。				
7. 安全対策が十分取られていると思うか	85	16	8	0
「はい」が78.0%、「どちらともいえない」が14.7%、「いいえ」が7.3%となっている。 自由意見は16件で、「防災訓練に何度か参加するタイミングがあり、先生方の連携のよさや訓練をすることの意味が、子どもたちにもきちんと身につけていることも感じる事ができ、安心感もより生まれた」などのほか、保育中の安全管理、設備面、外部侵入対策や感染症対策等について、気になる点や要望が挙げられている。				
8. 園の活動に保護者が参加しやすいよう、工夫されているか	86	20	3	0
「はい」が78.9%、「どちらともいえない」が18.3%、「いいえ」が2.8%となっている。 自由意見は8件で、「行事や参観はよい」「年間スケジュールを4月にもらえるので、工夫されている」のほか、行事の日程の設定や保護者への発信、負担軽減への配慮などについて、気になる点や要望が寄せられている。				
9. 子どもの教育・保育について家庭と園に信頼関係があるか	103	5	1	0
「はい」が94.5%、「どちらともいえない」が4.6%、「いいえ」が0.9%となっている。 自由意見には「大変丁寧にみてくれていると感じる」「面談などの時間を設けなくても、行事の時など気軽に話せるのでよい」「個人面談もあり、希望すればしっかり相談に乗ってくれていると思う」など4件があった。				
10. 施設内の清掃、整理整頓は行き届いているか	94	14	1	0
「はい」が86.2%、「どちらともいえない」が12.8%、「いいえ」が0.9%となっている。 自由意見には、清掃等について、気になる点を挙げる声が1件寄せられている。				

11. 職員の接遇・態度は適切か	106	3	0	0
「はい」が97.2%、「どちらともいえない」が2.8%となっている。 自由意見には「いつも清潔感があり、服装も先生に適切だと思う」の1件があった。				
12. 病気やけがをした際の職員の対応は信頼できるか	104	5	0	0
「はい」が95.4%、「どちらともいえない」が4.6%となっている。 自由意見は4件で、「すぐに連絡をくれ、状況を細かく説明してくれるので安心である」のほか、ケガや体調変化等の把握や保護者への伝達・報告などについて、気になる点を挙げる声が見られた。				
13. 子ども同士のトラブルに関する対応は信頼できるか	95	8	4	2
「はい」が88.8%、「どちらともいえない」が7.5%、「いいえ」が3.7%となっている。 自由意見は7件で、「子どもの気持ちに寄り添って対応してくれ、子どもの成長の手助けをしている」などのほか、子ども同士のトラブル等の把握や対応、保護者への報告などについて、さらなる配慮を望む声が見られた。				
14. 子どもの気持ちを尊重した対応がされているか	106	2	0	1
「はい」が98.1%、「どちらともいえない」が1.9%となっている。 自由意見には「子どもの気持ちを大切に保育してくれていると感じる」「どの職員にも感じている」の2件があった。				
15. 子どもと保護者のプライバシーは守られているか	95	5	0	9
「はい」が95.0%、「どちらともいえない」が5.0%となっている。 自由意見には「必要な場合は、周りにどこまで公にするかしっかり確認してくれる」の1件が寄せられている。				
16. 教育・保育内容に関する職員の説明はわかりやすいか	96	12	0	1
「はい」が88.9%、「どちらともいえない」が11.1%となっている。 自由意見は5件で、「保護者会ではよいお話をしてくれていると思う」「毎月のお知らせに記載されており、わかりやすい」のほか、保育内容等に関する保護者との共有などについて、気になる点を挙げる声が見られた。				
17. 利用者の不満や要望は対応されているか	84	11	2	12
「はい」が86.6%、「どちらともいえない」が11.3%、「いいえ」が2.1%となっている。 自由意見は5件で、「特に不満はない」などのほか、保護者の不満・要望等への対応などについて、さらなる配慮を望む声が寄せられている。				

18. 外部の苦情窓口(行政や第三者委員等)にも相談できることを伝えられているか	40	11	8	50
「はい」が67.8%、「どちらともいえない」が18.6%、「いいえ」が13.6%となっている。 自由意見は3件で、外部の意見窓口の周知などについて、さらなる配慮を望む声が見られた。				

I 組織マネジメント項目(カテゴリー1～5、7)

No.	共通評価項目	
1	カテゴリー1	
	リーダーシップと意思決定	
	サブカテゴリー1(1-1)	
	事業所が目指していることの実現に向けて一丸となっている	サブカテゴリー毎の標準項目実施状況
	7/7	
	評価項目1 事業所が目指していること(理念・ビジョン、基本方針など)を周知している	
	評点(〇〇)	
	評価	標準項目
	●あり ○なし	1. 事業所が目指していること(理念・ビジョン、基本方針など)について、職員の理解が深まるような取り組みを行っている
	●あり ○なし	2. 事業所が目指していること(理念・ビジョン、基本方針など)について、利用者本人や家族等の理解が深まるような取り組みを行っている
評価項目2 経営層(運営管理者含む)は自らの役割と責任を職員に対して表明し、事業所をリードしている		
評点(〇〇)		
評価	標準項目	
●あり ○なし	1. 経営層は、事業所が目指していること(理念・ビジョン、基本方針など)の実現に向けて、自らの役割と責任を職員に伝えている	
●あり ○なし	2. 経営層は、事業所が目指していること(理念・ビジョン、基本方針など)の実現に向けて、自らの役割と責任に基づいて職員が取り組むべき方向性を提示し、リーダーシップを発揮している	
評価項目3 重要な案件について、経営層(運営管理者含む)は実情を踏まえて意思決定し、その内容を関係者に周知している		
評点(〇〇〇)		
評価	標準項目	
●あり ○なし	1. 重要な案件の検討や決定の手順があらかじめ決まっている	
●あり ○なし	2. 重要な意思決定に関し、その内容と決定経緯について職員に周知している	
●あり ○なし	3. 利用者等に対し、重要な案件に関する決定事項について、必要に応じてその内容と決定経緯を伝えている	
カテゴリー1の講評		
<p>園・法人が教育・保育において目指すものを、保護者と共有すべく取り組んでいる</p> <p>幼児期の学びは、経験からの体得から育まれるとの考えのもとで、感じて考えて行動する仲間との体験・生活を通じて、子どもの自己肯定感や、人と協力し合いながら主体的に行動する力、「健康な身体と、まるやかな心をつくる」ことを目指している。そうした園・法人の信念は、国の教育要領における「健康」「人間関係」などの教育の5領域や、「健康な子」「明るい子」「何でも言える子」など5つの子ども像を示す教育目標などとともに、保護者には見学・入園時の説明や、各学年で学期ごとに設ける懇談会などを通じ、継続的に周知が図られている。</p> <p>園・法人の目指すものの職員への周知と、経営層による運営の統括の仕組みを整えている</p> <p>職員には上記の園・法人の目指すものについて、入職時の初任者教育を通じて理解と実践を促すとともに、着任後も毎月保護者・職員に配付される「お知らせしたい事」、会議での経営層による啓発などにより、実務経験を重ねる中で再確認できるようにしている。日々の園運営では、園長・副園長が経営面の管理・責任と環境整備を担い、保育などの実務面の統括を、主任・副主任を中心に行う体制とし、職員にはそれぞれの職責を果たすうえで、子ども一人ひとりの人格と尊厳の尊重と、子どもが安心して自己を発揮できる環境を整えることを求めている。</p> <p>案件に応じた意思決定と、必要な情報の職員・保護者への周知の手順を定めている</p> <p>毎週の学年会で各年齢の状況を話し合い、原則毎週金曜に行う全体会でそれらを共有し、必要な検討を行うとともに、主任・副主任及び各学年主任を中心とする毎月の主任会議も、各種の重要事項を話し合う場としている。運営全般の意思決定や情報共有は、主にこれらの場で案件や緊急性に応じて行っており、参加していない職員には、議事録や出席者からの報告によって、必要な情報を周知させている。保護者には主にアプリでの配信によって、各種の重要事項を伝えるとともに、案件に応じ書面も併用し、確実な周知と理解の獲得を図っている。</p>		

カテゴリ-2		
2 事業所を取り巻く環境の把握・活用及び計画の策定と実行		
サブカテゴリ-1(2-1)		
事業所を取り巻く環境について情報を把握・検討し、課題を抽出している		サブカテゴリ毎の標準項目実施状況 <b>6/6</b>
評価項目1 事業所を取り巻く環境について情報を把握・検討し、課題を抽出している		評点(000000)
評価	標準項目	
●あり ○なし	1. 利用者アンケートなど、事業所側からの働きかけにより利用者の意向について情報を収集し、ニーズを把握している	○非該当
●あり ○なし	2. 事業所運営に対する職員の意向を把握・検討している	○非該当
●あり ○なし	3. 地域の福祉の現状について情報を収集し、ニーズを把握している	○非該当
●あり ○なし	4. 福祉事業全体の動向(行政や業界などの動き)について情報を収集し、課題やニーズを把握している	○非該当
●あり ○なし	5. 事業所の経営状況を把握・検討している	○非該当
●あり ○なし	6. 把握したニーズ等や検討内容を踏まえ、事業所として対応すべき課題を抽出している	○非該当

サブカテゴリ-2(2-2)		
実践的な計画策定に取り組んでいる		サブカテゴリ毎の標準項目実施状況 5/5
<b>評価項目1</b> 事業所が目指していること(理念・ビジョン、基本方針など)の実現に向けた中・長期計画及び単年度計画を策定している		評点(〇〇〇)
評価	標準項目	
●あり ○なし	1. 課題をふまえ、事業所が目指していること(理念・ビジョン、基本方針など)の実現に向けた中・長期計画を策定している	○非該当
●あり ○なし	2. 中・長期計画をふまえた単年度計画を策定している	○非該当
●あり ○なし	3. 策定している計画に合わせた予算編成を行っている	○非該当
<b>評価項目2</b> 着実な計画の実行に取り組んでいる		評点(〇〇)
評価	標準項目	
●あり ○なし	1. 事業所が目指していること(理念・ビジョン、基本方針など)の実現に向けた、計画の推進方法(体制、職員の役割や活動内容など)、目指す目標、達成度合いを測る指標を明示している	○非該当
●あり ○なし	2. 計画推進にあたり、進捗状況を確認し(半期・月単位など)、必要に応じて見直しをしながら取り組んでいる	○非該当
カテゴリー-2の講評		
今後3か年の重点目標を示す計画と、各分野の実務に関する計画が作成されている 今年度作成の「中期計画」に、保育の質の向上・子どもの健康と生活の充実など、実務や保護者・地域への支援・貢献に関する3か年の「中期的な重点目標」と、今後の体制・運営に関する方針などを定めている。保育施設等で一般的に作成される、事業計画と総称される計画は作成しておらず、左記の重点目標はそれぞれの分野の実行計画に反映させ、運営においては経営層を中心に諸般の方針を検討し、前述の各会議で職員への通達や意向の把握を行う仕組みとしている。予算の作成・管理など、経営状況の把握と検討は、法人内の経営本部が行っている。 各種業務の実施にあたり、計画の作成と実行や、職員の意向の把握の仕組みを定めている 保育の年間計画と月・週日の計画など、分野ごとに年間・短期の各計画を作成し、現場の各種業務を実行するとともに、左記の保育の年間計画の周期的な振り返りなど、計画の内容・期間に応じた実行状況の確認を行っている。また計画実行の体制として、保育や食事・保健、事務等の各担当者・役職者の配置のほか、各種の行事と係活動については、分担を一覧表として明示している。毎週・毎月の各会議では現場の提案・要望等、職員との面談や日々の会話では個別の意向をそれぞれ把握し、運営や実務の参考としている。 保護者の意向や地域の状況、行政・業界の動向などの把握にも取り組んでいる 運営や各計画の検討には、保護者の意向も適宜参考とし、行事や参観などの後に行うアンケートや日々の個別の傾聴、学期ごとに設ける懇談会での対話などを通じて、保護者の声に耳を傾けている。また「にこにこクラブ」やさまざまな開放イベント等で来園する入園前家庭や、地元の町会との交流などから、地域の状況や教育・子育て等のニーズを探っている。行政や業界の動向は、中野区の保育所・こども園や幼稚園の各園長会、園長が出席する区・都の有識者会議など、参画する複数の保育・教育関係者等の会議や、自治体の各種通達などから把握している。		

カテゴリ-3		
3 経営における社会的責任		
サブカテゴリ-1(3-1)		
社会人・福祉サービス事業者として守るべきことを明確にし、その達成に取り組んでいる		サブカテゴリ毎の標準項目実施状況 <b>2/2</b>
評価項目1 社会人・福祉サービスに従事する者として守るべき法・規範・倫理などを周知し、遵守されるよう取り組んでいる <span style="float: right;">評点(〇〇)</span>		
評価	標準項目	
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	1. 全職員に対して、社会人・福祉サービスに従事する者として守るべき法・規範・倫理(個人の尊厳を含む)などを周知し、理解が深まるよう取り組んでいる	<input type="radio"/> 非該当
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	2. 全職員に対して、守るべき法・規範・倫理(個人の尊厳を含む)などが遵守されるよう取り組み、定期的に確認している。	<input type="radio"/> 非該当
サブカテゴリ-2(3-2)		
利用者の権利擁護のために、組織的な取り組みを行っている		サブカテゴリ毎の標準項目実施状況 <b>3/4</b>
評価項目1 利用者の意向(意見・要望・苦情)を多様な方法で把握し、迅速に対応する体制を整えている <span style="float: right;">評点(〇●)</span>		
評価	標準項目	
<input type="radio"/> あり <input checked="" type="radio"/> なし	1. 苦情解決制度を利用できることや事業者以外の相談先を遠慮なく利用できることを、利用者に伝えている	<input type="radio"/> 非該当
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	2. 利用者の意向(意見・要望・苦情)に対し、組織的に速やかに対応する仕組みがある	<input type="radio"/> 非該当
評価項目2 虐待に対し組織的な防止対策と対応をしている <span style="float: right;">評点(〇〇)</span>		
評価	標準項目	
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	1. 利用者の気持ちを傷つけるような職員の言動、虐待が行われることのないよう、職員が相互に日常の言動を振り返り、組織的に防止対策を徹底している	<input type="radio"/> 非該当
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	2. 虐待を受けている疑いのある利用者の情報を得たときや、虐待の事実を把握した際には、組織として関係機関と連携しながら対応する体制を整えている	<input type="radio"/> 非該当

サブカテゴリ-3(3-3)		
地域の福祉に役立つ取り組みを行っている		サブカテゴリ毎の標準項目実施状況 5/5
評価項目1 透明性を高め、地域との関係づくりに向けて取り組んでいる		評点(〇〇)
評価	標準項目	
●あり ○なし	1. 透明性を高めるために、事業所の活動内容を開示するなど開かれた組織となるよう取り組んでいる	○非該当
●あり ○なし	2. ボランティア、実習生及び見学・体験する小・中学生などの受け入れ体制を整備している	○非該当
評価項目2 地域の福祉ニーズにもとづき、地域貢献の取り組みをしている		評点(〇〇〇)
評価	標準項目	
●あり ○なし	1. 地域の福祉ニーズにもとづき、事業所の機能や専門性をいかした地域貢献の取り組みをしている	○非該当
●あり ○なし	2. 事業所が地域の一員としての役割を果たすため、地域関係機関のネットワーク(事業者連絡会、施設長会など)に参画している	○非該当
●あり ○なし	3. 地域ネットワーク内での共通課題について、協働できる体制を整えて、取り組んでいる	○非該当
カテゴリ-3の講評		
<p><b>職員への倫理・規範面の啓発や、地域に対する透明性の確保に取り組んでいる</b></p> <p>「やはたみずのとう幼稚園の職員として」に、子ども一人ひとりを受容し、言動においては否定語を避け、声で子どもを動かさないこと、呼び捨てにしないこと等、現場での子どもへの援助の際の心がけのほか、保護者対応や、身だしなみや接遇のマナー、機密保持・個人情報保護などの勤務者としての規範が示されている。入職者にはこれをもとに啓発を行うほか、毎年度の更新と組織内での確認を行っている。ホームページや中野区の各種媒体、園の外周柵への掲示などを通じた情報発信、実習生・職場体験生の受け入れなど、透明性ある運営にも努めている。</p> <p><b>虐待等の早期発見・防止や、保護者から寄せられる声への適切な対応に取り組んでいる</b></p> <p>いわゆる不適切保育の防止を含め、現場で気になる場面が見られた場合には、個別の指導・啓発や、区の通達等の確認を行うこととなっている。中野区の保育の質ガイドライン・全国保育士会編のチェックリスト等、行政の示す手引きなどを用いた、組織的な啓発にも取り組むことを期待したい。虐待や育児不安等が懸念される家庭・子どもには、行政機関と連携して対応にあたる体制を整え、苦情を含む保護者の意向には、案件に応じ、個別に傾聴・相談の席を設けるなど、適切な対応に努めており、第三者委員を含む苦情解決制度の整備と周知も期待される。</p> <p><b>子育て支援や町会への協力、保育・教育関係者との連携など、地域との交流に努めている</b></p> <p>概ね毎月行う「にこにこクラブ」では、地域の入園前家庭に、芝生や室内で、季節の手遊びや絵本の読み聞かせを行うほか、好きなおもちゃで遊んだり、季節の制作を楽しんだりできるコーナーも用意している。また各種の相談対応や、園長による子育て等に関する講話、移動動物園・運動会や作品展・バザーの開放など、多様な内容で子育て家庭を支援している。地域の町会のお祭りやゴミ拾い活動にも協力し、中野区の保育所・こども園と幼稚園の各園長会、保・幼・小の連絡会や中学校区別の懇談会など、地域内の関係者が集う会議にも複数参画している。</p>		

カテゴリー4		
4 リスクマネジメント		
サブカテゴリー1(4-1)		
リスクマネジメントに計画的に取り組んでいる		サブカテゴリー毎の標準項目実施状況 <b>5/5</b>
評価項目1 事業所としてリスクマネジメントに取り組んでいる		評点(〇〇〇〇〇)
評価	標準項目	
●あり ○なし	1. 事業所が目指していることの実現を阻害する恐れのあるリスク(事故、感染症、侵入、災害、経営環境の変化など)を洗い出し、どのリスクに対策を講じるかについて優先順位をつけている	○非該当
●あり ○なし	2. 優先順位の高さに応じて、リスクに対し必要な対策をとっている	○非該当
●あり ○なし	3. 災害や深刻な事故等に遭遇した場合に備え、事業継続計画(BCP)を策定している	○非該当
●あり ○なし	4. リスクに対する必要な対策や事業継続計画について、職員、利用者、関係機関などに周知し、理解して対応できるように取り組んでいる	○非該当
●あり ○なし	5. 事故、感染症、侵入、災害などが発生したときは、要因及び対応を分析し、再発防止と対策の見直しに取り組んでいる	○非該当
サブカテゴリー2(4-2)		
事業所の情報管理を適切に行い活用できるようにしている		サブカテゴリー毎の標準項目実施状況 <b>4/4</b>
評価項目1 事業所の情報管理を適切に行い活用できるようにしている		評点(〇〇〇〇)
評価	標準項目	
●あり ○なし	1. 情報の収集、利用、保管、廃棄について規程・ルールを定め、職員(実習生やボランティアを含む)が理解し遵守するための取り組みを行っている	○非該当
●あり ○なし	2. 収集した情報は、必要な人が必要なときに活用できるように整理・管理している	○非該当
●あり ○なし	3. 情報の重要性や機密性を踏まえ、アクセス権限を設定するほか、情報漏えい防止のための対策をとっている	○非該当
●あり ○なし	4. 事業所で扱っている個人情報については、「個人情報保護法」の趣旨を踏まえ、利用目的の明示及び開示請求への対応を含む規程・体制を整備している	○非該当
カテゴリー4の講評		
<p>災害・不審者や保健・安全面の各種リスクについて、訓練等の対策に取り組んでいる</p> <p>毎月の防災訓練では、早朝から夕方まで、開所中の各時間帯・状況を設定して、災害時の対応を確認しており、不審者対策訓練も年3回設け、警察署の来園指導や、セキュリティ業者による施設全体の機械整備もなされている。また警察署の指導をもとに、戸外での不審者発生時の対応を、園外保育の計画案に定めている。消防署による心肺蘇生・AED訓練や、感染症流行前の嘔吐物処理手順の確認、夏場を前に会議で行う、水遊び時の安全対策や熱中症対策の確認など、季節性の重要リスクを含め、現場の保健・安全面の啓発・研鑽にも取り組んでいる。</p> <p>事故の検証や各種の手引書類の整備など、安全の確保と向上に取り組んでいる</p> <p>受診を要した子どものケガ等の事故は、発生時の状況から原因や防止対策を検討し、予防と再発防止に努めており、防災・防犯やケガの処置などに関するマニュアル整備もなされている。またいわゆるヒヤリハットについて、過去の蓄積を含む事例を集約・分類し、「施設」「食事・口の中・アレルギー」「けが未遂」など、環境・場面別にリスクを一覧化しており、取組の継続や定期的な確認等の活用も期待したい。防災のマニュアルには「地震後の復旧計画」として、災害後の対応を簡易的に列挙しているが、災害・感染症発生時のBCPの整備も期待される。</p> <p>情報漏洩を防ぐための、職員への啓発や環境の整備がなされている</p> <p>「やはたみずのとう幼稚園の職員として」に、情報の園外への持ち出しや口外の禁止、SNS利用時の諸注意など、情報漏洩を防ぐために職員が厳守すべき事柄を明記し、入職時の啓発や毎年度の確認により、職員に徹底を求めている。また法人の個人情報保護規程等に、利用目的や開示等の請求への対応方針などを文書化しており、利用目的については入園時などの保護者への明示も期待される。実習生等には受け入れ時に守秘義務の厳守を促すこととなっており、重要書類の施錠管理やPCへのパスワード設定など、部外者の情報アクセス防止にも配慮している。</p>		

カテゴリ5		
5 職員と組織の能力向上		
サブカテゴリ1(5-1)		
事業所が目指している経営・サービスを実現する人材の確保・育成・定着に取り組んでいる		サブカテゴリ毎の標準項目実施状況 <b>8/12</b>
評価項目1 事業所が目指していることの実現に必要な人材構成にしている		評点(〇〇)
評価	標準項目	
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	1. 事業所が求める人材の確保ができるよう工夫している	<input type="radio"/> 非該当
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	2. 事業所が求める人材、事業所の状況を踏まえ、育成や将来の人材構成を見据えた異動や配置に取り組んでいる	<input type="radio"/> 非該当
評価項目2 事業所の求める人材像に基づき人材育成計画を策定している		評点(●●)
評価	標準項目	
<input type="radio"/> あり <input checked="" type="radio"/> なし	1. 事業所が求める職責または職務内容に応じた長期的な展望(キャリアパス)が職員に分かりやすく周知されている	<input type="radio"/> 非該当
<input type="radio"/> あり <input checked="" type="radio"/> なし	2. 事業所が求める職責または職務内容に応じた長期的な展望(キャリアパス)と連動した事業所の人材育成計画を策定している	<input type="radio"/> 非該当
評価項目3 事業所の求める人材像を踏まえた職員の育成に取り組んでいる		評点(〇〇●●)
評価	標準項目	
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	1. 勤務形態に関わらず、職員にさまざまな方法で研修等を実施している	<input type="radio"/> 非該当
<input type="radio"/> あり <input checked="" type="radio"/> なし	2. 職員一人ひとりの意向や経験等に基づき、個人別の育成(研修)計画を策定している	<input type="radio"/> 非該当
<input type="radio"/> あり <input checked="" type="radio"/> なし	3. 職員一人ひとりの育成の成果を確認し、個人別の育成(研修)計画へ反映している	<input type="radio"/> 非該当
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	4. 指導を担当する職員に対して、自らの役割を理解してより良い指導ができるよう組織的に支援を行っている	<input type="radio"/> 非該当
評価項目4 職員の定着に向け、職員の意欲向上に取り組んでいる		評点(〇〇〇〇)
評価	標準項目	
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	1. 事業所の特性を踏まえ、職員の育成・評価と処遇(賃金、昇進・昇格等)・称賛などを連動させている	<input type="radio"/> 非該当
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	2. 就業状況(勤務時間や休暇取得、職場環境・健康・ストレスなど)を把握し、安心して働き続けられる職場づくりに取り組んでいる	<input type="radio"/> 非該当
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	3. 職員の意識を把握し、意欲と働きがいの向上に取り組んでいる	<input type="radio"/> 非該当
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	4. 職員間の良好な人間関係構築のための取り組みを行っている	<input type="radio"/> 非該当

サブカテゴリ-2(5-2)		サブカテゴリ毎の 標準項目実施状況	3/3
組織力の向上に取り組んでいる			
評価項目1 組織力の向上に向け、組織としての学びとチームワークの促進に 取り組んでいる			評点(〇〇〇)
評価	標準項目		
●あり ○なし	1. 職員一人ひとりが学んだ研修内容を、レポートや発表等を通じて共有化している		○非該当
●あり ○なし	2. 職員一人ひとりの日頃の気づきや工夫について、互いに話し合い、サービスの質の向上や業務改善に 活かす仕組みを設けている		○非該当
●あり ○なし	3. 目標達成や課題解決に向けて、チームでの活動が効果的に進むよう取り組んでいる		○非該当
カテゴリ-5の講評			
<p><b>職員の採用と園の体制に応じた人事、労働環境管理に関する仕組みを整えている</b></p> <p>法人・園が連携して職員の募集・採用を行い、求人は各種養成機関・採用媒体を中心に実施し、傘下の各園の体制と各人の希望を勘案して配属を行っている。異動や園内での配置も各人の希望を把握したうえで、配置は各クラスの状況を踏まえ、先輩・後輩間の育成や、進級時の担任継続による保育の安定確保、各人の経験・能力やチームとしてのバランス・関係性など、多様な要素を考慮して決定している。各種労務管理・福利厚生など、労働環境整備にも努め、今般の職員自己評価を踏まえ、現場の理解の獲得や、実施可能な改善に取り組む意向である。</p> <p><b>実務と上席者との対話や各種の研修を通じ、各職員の能力向上と成長を促している</b></p> <p>職員の個別の育成は、日々の実務を通じたOJTと先輩・上席者の支援のほか、経営層などによる面談を通じて行っている。面談では各人の生活面を含む個別事情や現況の把握のほか、期待する成長・役割や、それに対する各人の認識も適宜確認し、必要な支援や、各種の研修への派遣などに反映させることとなっている。行政・各種団体等主催の外部の研修には、体制の状況に応じて積極的な受講を促し、保育や子どもの発達、マネジメントや保健衛生など、各人の経験・職位や担当業務ごとに望まれる知見・技術の獲得を支援している。</p> <p><b>各種の会議や園内研修は、組織的な研鑽・改善と、現場の同僚性の向上の場となっている</b></p> <p>各種研修で各人が得た学びは、資料・報告書や会議を通じて組織内に伝えられている。毎週の学年会・全体会や毎月の主任会議など、現場の各種会議では、各クラス・園児の状況の共有や、保育その他の直近の諸課題に関する検討を行い、業務全般の改善に取り組んでいる。また年3回程度設ける園内研修では、上記の各職員が受講した研修の報告のほか、職員から募ったテーマをもとに、今年度の運動遊びなど、実務に即した視点で、組織的な研鑽がなされており、参加者同士の話し合いを通じて気づきや課題意識を共有する、同僚性促進の場ともなっている。</p>			

カテゴリ7	
7 事業所の重要課題に対する組織的な活動	
サブカテゴリ1(7-1)	
事業所の重要課題に対して、目標設定・取り組み・結果の検証・次期の事業活動等への反映を行っている	
<p>評価項目1 事業所の理念・基本方針の実現を図る上での重要課題について、前年度具体的な目標を設定して取り組み、結果を検証して、今年度以降の改善につなげている(その1)</p>	
<p>前年度の重要課題に対する組織的な活動(評価機関によるまとめ)</p> <p>昨年度は保護者との日常の連絡・通信の電子化に注力した。生活スタイルの多様化を踏まえ、保護者の情報アクセスや園とのコミュニケーションの利便性・即時性ととも、園側からの各種の連絡の周知の確実性も高めることを目的として、ICTを活用した連絡体制を整備し、保護者が手持ちの端末等でも情報を確認できる環境を整えることを目標とした。 導入するソフトウェアを検討・選定し、園内の通信環境や必要な端末類の整備なども適宜実施したうえで、保護者にもそれぞれの端末へのインストールと日常の利用に関する依頼・説明を行い、運用を開始した。</p>	
目標の設定と取り組み	<input checked="" type="radio"/> 具体的な目標を設定し、その達成に向けて取り組みを行った <input type="radio"/> 具体的な目標を設定したが、その達成に向けて取り組みが行われていなかった <input type="radio"/> 具体的な目標が設定されていなかった
取り組みの検証	<input checked="" type="radio"/> 目標達成に向けた取り組みについて、検証を行った <input type="radio"/> 目標達成に向けた取り組みについて、検証を行っていなかった(目標設定を行っていなかった場合も含む) <input type="radio"/> 設立後間もないため、前年度の実績がなく、評価対象外である
検証結果の反映	<input checked="" type="radio"/> 次期の事業活動や事業計画へ、検証結果を反映させた <input type="radio"/> 次期の事業活動や事業計画へ、検証結果を反映させていない <input type="radio"/> 設立後間もないため、前年度の実績がなく、評価対象外である
<p>評価項目1で確認した組織的な活動や評語の選択に関する講評</p> <p>ICTを活用した連絡・通信は、各種の配付物の一斉配信に加え、欠席やバス利用等の個別のコミュニケーションにおいても活用し、園側の事務の省力化が図られるほか、保護者も移動中に確認できるようになるなど、それまでの紙媒体の印刷・配付や電話によるやり取りと比較し、保護者・園双方にとって利便性・即時性が向上している。 一連の仕組みは今後も運用を継続するほか、情報の重要性などに応じて紙媒体の配付や掲示も活用するなど、情報の発信・周知の効果的な運用を図ってゆく意向である。</p>	

## 評価項目2

事業所の理念・基本方針の実現を図る上での重要課題について、前年度具体的な目標を設定して取り組み、結果を検証して、今年度以降の改善につなげている(その2)

## 前年度の重要課題に対する組織的な活動(評価機関によるまとめ)

昨年度は子どもたちの自由遊びのより豊かな展開をねらいとして、保育環境の充実に取り組んだ。年度当初から外部の有識者の支援のもとで、玩具・遊具等の増設をはじめ、環境設定の見直しと改善に取り組むとともに、園内研修(「園内研」)でもテーマに採り上げ、学びを深めた。

研修の実施にあたり、子どもの主体性を育むために、日常の保育の自由遊びで意識していること、自由遊びの主体的な展開を援助するうえで迷いや悩みなどについて、事前に各職員に考えを整理しておくよう求めたうえで、当日はそれぞれのテーマについてグループ討議を行い、現状の課題や取り組んでいる工夫などの共有を図った。また実際に玩具・遊具等で遊んでみる中で、形状や用途、使用に適する年齢・発達段階などを確認するなど、教材研究にも取り組んでいる。

これを含め、園内研修は職種を問わず全職員にアンケートを行い、テーマ・課題認識を募ったうえで、その集約をもとに企画を進めており、昨年度は口腔ケアなどに関しても学ぶ場を設けている。

目標の設定と取り組み	<input checked="" type="radio"/> 具体的な目標を設定し、その達成に向けて取り組みを行った <input type="radio"/> 具体的な目標を設定したが、その達成に向けて取り組みが行われていなかった <input type="radio"/> 具体的な目標が設定されていなかった
取り組みの検証	<input checked="" type="radio"/> 目標達成に向けた取り組みについて、検証を行った <input type="radio"/> 目標達成に向けた取り組みについて、検証を行っていなかった(目標設定を行っていなかった場合も含む) <input type="radio"/> 設立後間もないため、前年度の実績がなく、評価対象外である
検証結果の反映	<input checked="" type="radio"/> 次期の事業活動や事業計画へ、検証結果を反映させた <input type="radio"/> 次期の事業活動や事業計画へ、検証結果を反映させていない <input type="radio"/> 設立後間もないため、前年度の実績がなく、評価対象外である

## 評価項目2で確認した組織的な活動や評語の選択に関する講評

今年度は運動遊びをテーマとして、運動遊びの意義や主な種類などを確認したうえで、職員を複数グループに分け、それぞれに与えられたテーマに基づいてアイデアを出し合い、具体的な活動内容や配慮点などを計画書にまとめ、ワークショップ形式で実践と共有を行っている。その後振り返りを各グループで行い、どこが楽しかったか・難しかったか、工夫した点や要改善点などを話し合うとともに、各グループの発表によってそれらを共有している。

経営層は昨年度・今年度とも、実践と話し合いを通じた研鑽によって、日常の保育で提供する自由遊び・運動遊びを質量ともに充実させ、チームとしての活力も高める効果につながったと考えている。また今年度の研修の冒頭では、参加者各人が幼少期を含むそれまでの運動遊びの体験を伝え合う場も設け、職員同士が互いの人となりを知る、同僚性の向上の機会ともなるようにしている。研修の成果は、その後の日常の活動や親子行事「プレイデー」にも反映させるとともに、園内研修の様子は展示によって保護者にも発信し、経験談を書き込んでもらうなど、保護者との相互理解の進展にも活かしている。

II サービス提供のプロセス項目 (カテゴリ-6-1~3、6-5~6)

No.	共通評価項目	
	サブカテゴリ-1	
1	サービス情報の提供	サブカテゴリ毎の標準項目実施状況 <b>4/4</b>
評価項目1 利用希望者等に対してサービスの情報を提供している		評点(〇〇〇〇)
評価	標準項目	
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	1. 利用希望者等が入手できる媒体で、事業所の情報を提供している	<input type="radio"/> 非該当
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	2. 利用希望者等の特性を考慮し、提供する情報の表記や内容をわかりやすいものになっている	<input type="radio"/> 非該当
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	3. 事業所の情報を、行政や関係機関等に提供している	<input type="radio"/> 非該当
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	4. 利用希望者等の問い合わせや見学の要望があった場合には、個別の状況に応じて対応している	<input type="radio"/> 非該当
サブカテゴリ-1の講評		
<p>入園希望者には、提供する諸資料によって園の特色や概要を伝えている</p> <p>見学等で来園する入園希望者には、園・法人制作の各種資料を手渡している。厚紙カラー版の体裁で、園内の様子を伝えるさまざまな写真が掲載される、法人作成の冊子資料のほか、三つ折りパンフレット「学園案内」には、園の沿革と、自園給食・芝生の園庭・体育指導や外国籍のネイティブスピーカー講師による英語指導、年間の行事予定・課外教室などの園の特色のほか、保育時間・長時間保育や交通アクセス・周辺略図、園の連絡先などの情報と、子どもたちの園生活を伝える種々の写真を掲載している。</p> <p>見学では園内を案内し、資料をもとに園の方針・特色などを伝えている</p> <p>上記のほか、見学会用の資料も制作されている。1・2歳児と3歳以上児の1日の園生活の流れと、年間のさまざまな行事、園での食事の特色と園に食に寄せる思いなどを、子どもたちの姿を伝える写真とともに紹介し、園の概要や認定区分ごとの利用に関する各種情報、課外教室や入園に関する事なども掲載している。見学は電話で受け付け、基本的には平日午前中に、園舎の見学と説明・質疑を合わせて所要80分程度で行い、同資料をもとに、園の方針・特色のほか、幼稚園としてのコアタイムと前後の1・3号の活動形態の違いなどについて説明している。</p> <p>ホームページや中野区を通じて、園のさまざまな情報を入園希望者に発信している</p> <p>ホームページは母体である併設の幼稚園のサイトとして、上記の園の概要と各種特色や、子どもたちの園生活を紹介するさまざまな写真、アクセス情報のほか、見学会や各種イベント、子育て支援「にこにこクラブ」などの情報を発信している。また別途開設の法人のホームページにも、当園の各種情報が掲載されている。地域の子育て家庭が参加可能な各種イベントは、園の外周柵への掲示でも広報を行っており、中野区のサイトや入園希望者向けの資料にも、当園の基本情報や園のサイトへのリンクが掲載されている。</p>		

サブカテゴリー2		
2	サービスの開始・終了時の対応	サブカテゴリー毎の標準項目実施状況 6/6
<b>評価項目1</b> サービスの開始にあたり保護者に説明し、同意を得ている		評点(〇〇〇)
<b>評価</b>	<b>標準項目</b>	
●あり ○なし	1. サービスの開始にあたり、基本的ルール、重要事項等を保護者の状況に応じて説明している	○非該当
●あり ○なし	2. サービス内容について、保護者の同意を得るようにしている	○非該当
●あり ○なし	3. サービスに関する説明の際に、保護者の意向を確認し、記録化している	○非該当
<b>評価項目2</b> サービスの開始及び終了の際に、環境変化に対応できるよう支援を行っている		評点(〇〇〇)
<b>評価</b>	<b>標準項目</b>	
●あり ○なし	1. サービス開始時に、子どもの指導・援助に必要な個別事情や要望を決められた書式に記録し、把握している	○非該当
●あり ○なし	2. 利用開始直後には、子どもの不安やストレスが軽減されるように配慮している	○非該当
●あり ○なし	3. サービスの終了時には、子どもや保護者の不安を軽減し、支援の継続性に配慮した支援を行っている	○非該当
サブカテゴリー2の講評		
<p><b>1号認定の入園面談で家庭の意向を把握し、園の理念とケガへの考え方を共有している</b></p> <p>1号認定の入園面談では、保育者が「新入園児行動観察記録表」で発達状況を確認するほか、保護者の育児観や願いを聴き取っている。面談では園の教育理念に加え、生活の中で生じるケガや摩擦も、相手の思いを知り、適切な言葉を獲得するための「貴重な育ちの機会」ととらえる園の考えを伝え、相互理解を図っている。2・3号認定の面談では栄養士等の専門職も同席し、アレルギー等の個別情報を詳細に記録する体制を整えている。「入園のしおり」を用いた説明会も実施し、利用のルールや園の教育方針について説明し、保護者の同意を確認している。</p> <p><b>入園当初のスモック登園による負担軽減や、環境に慣れるための支援に取り組んでいる</b></p> <p>利用開始直後の子どもと保護者のストレス軽減を図っており、入園直後の子どもの不安軽減に向け、1号認定児には約2週間、制服ではなく遊び着(スモック)での登園を推奨し、朝の支度を簡略化して「まず遊びを楽しむ」ことを優先する期間を設けている。また保育室やトイレを探検する機会を設け、楽しみながら、園内環境に慣れるよう配慮している。2・3号認定児には、1週間程度の「慣らし保育」期間を設定し、保育時間を徐々に延ばしている。家庭訪問も実施しており、家庭状況の把握や保護者との信頼関係構築に努めている。</p> <p><b>就学に向けたスムーズな移行支援と、卒園後の継続的な関係維持に取り組んでいる</b></p> <p>サービスの終了時には、3学期面談を実施し、就学に向けた保護者の不安を聴き取るとともに、保護者が希望する場合には、就学支援シートの作成に応じている。また円滑な就学への接続に向け、小学校に子どもの情報を丁寧に伝えるほか、小学校探検や学校ごっこを行ったり、4歳児後半から1年半をかけて文字のワークを導入したりするなど、就学への期待を高める活動を計画的に実施している。卒園時には、再訪の歓迎やいつでも相談に応じる旨を保護者に伝え、卒園後も小学校6年生まで運動会やバザーへハガキで招待するなど、関係の継続に努めている。</p>		

サブカテゴリ-3		
3	個別状況の記録と計画策定	サブカテゴリ毎の標準項目実施状況 13/13
<b>評価項目1</b> 定められた手順に従ってアセスメント(情報収集、分析および課題設定)を行い、子どもの課題を個別のサービス場面ごとに明示している		評点(〇〇〇)
評価	標準項目	
●あり ○なし	1. 子どもの心身状況や生活状況等を、組織が定めた統一した様式によって記録し把握している	○非該当
●あり ○なし	2. 子どもや保護者のニーズや課題を明示する手続きを定め、記録している	○非該当
●あり ○なし	3. アセスメントの定期的見直しの時期と手順を定めている	○非該当
<b>評価項目2</b> 全体的な計画(教育課程を含む)や子どもの様子を踏まえた指導計画を作成している		評点(〇〇〇〇〇)
評価	標準項目	
●あり ○なし	1. 指導計画は、全体的な計画(教育課程を含む)を踏まえて、養護(生命の保持・情緒の安定)と教育(健康・人間関係・環境・言葉・表現)の各領域を考慮して作成している	○非該当
●あり ○なし	2. 指導計画は、子どもの実態や子どもを取り巻く状況の変化に即して、指導の過程を踏まえて作成、見直しをしている	○非該当
●あり ○なし	3. 個別的な計画が必要な子どもに対し、子どもの状況(年齢・発達の状況など)に応じて、個別的な計画の作成、見直しをしている	○非該当
●あり ○なし	4. 指導計画を保護者にわかりやすく説明している	○非該当
●あり ○なし	5. 指導計画は、見直しの時期・手順等の基準を定め、必要に応じて見直ししている	○非該当

<b>評価項目3</b> 子どもに関する記録を適切に作成する体制を確立している		評点(〇〇)
評価	標準項目	
●あり ○なし	1. 子ども一人ひとりに関する必要な情報を記載するしくみがある	○非該当
●あり ○なし	2. 指導計画に沿った具体的な指導・援助内容と、その結果子どもの状態がどのように推移したのかについて具体的に記録している	○非該当

<b>評価項目4</b> 子どもの状況等に関する情報を職員間で共有化している		評点(〇〇〇)
評価	標準項目	
●あり ○なし	1. 指導計画の内容や個人の記録を、指導・援助を担当する職員すべてが共有し、活用している	○非該当
●あり ○なし	2. 子どもや保護者の状況に変化があった場合の情報について、職員間で申し送り・引継ぎ等を行っている	○非該当
●あり ○なし	3. 子ども一人ひとりに対する理解を深めるため、指導事例を持ち寄る等話し合う機会を設けている	○非該当

サブカテゴリ-3の講評

**個別の育ちをとらえるアセスメントの手順を定め、保護者との相互理解にも努めている**  
 入園時に把握している子どもの成長・発達の状態を、定期的に見直す仕組みを整えている。子どもの体格的な成長については、毎月身体測定を実施して、その推移を記録している。心身の発達状況については、日々の保育日誌に子どもの姿を記録するほか、定期的な指導要録にも記録しており、領域別の発達状況を継続的に把握している。1・2歳児には個人別の指導計画を作成し、学期ごとに見直しを行っている。保護者面談では家庭での子どもの様子を聴き取るほか、園での様子や成長を伝えるなど、子どもの姿を伝え合い、相互理解・認識共有に努めている。

**全体的な計画に基づく長期・短期計画の策定と、実態に即した計画の見直しを行っている**  
 全体的な計画に基づき、長期的な年間計画を策定し、月・週日の短期的な計画に展開させている。長期的な計画には、期ごとの成長の目安を掲載し、短期的な計画は、実践への活用を想定し、長期的な計画に記された子どもの発達の目安を、養護と教育の各領域の内容から、子どもの実態や興味・関心を踏まえて作成することとしている。計画は周期ごとに振り返りを実施しており、週に一度の「学年会」では、子どもの状況を共有しながら翌週の環境構成や援助内容を検討している。保護者会では、学年ごとの年間目標やねらいを伝えている。

**指導計画と記録の連動性を高め、全職員での情報共有と保育の質向上を図っている**  
 指導計画に沿った具体的な援助と、それによる子どもの推移を、保育日誌や児童票に記録する仕組みを整えている。補助職員用の日誌も導入し、多角的な視点から、多面的な子どもの姿や成長をとらえられるよう工夫している。これらの記録は職員間で共有され、学年を超えた情報の申し送りや引き継ぎに活用されている。そのほか、前述の「学年会」のほか、特段の配慮を必要とする子どもへの対応に関する事例検討や、園内研修を通じた不適切な保育の振り返りなど、話し合いの機会を定期的に設けることで、職員一人ひとりの子どもに対する理解を深めている。

サブカテゴリー5		サブカテゴリー毎の標準項目実施状況	5/5
5	プライバシーの保護等個人の尊厳の尊重		
評価項目1 子どものプライバシー保護を徹底している		評点(〇〇)	
評価	標準項目		
●あり ○なし	1. 子どもに関する情報(事項)を外部和りとりする必要が生じた場合には、保護者の同意を得るようにしている		○非該当
●あり ○なし	2. 子どもの羞恥心に配慮した指導・援助を行っている		○非該当
評価項目2 サービスの実施にあたり、子どもの権利を守り、子どもの意思を尊重している		評点(〇〇〇)	
評価	標準項目		
●あり ○なし	1. 日常の教育・保育の中で子ども一人ひとりを尊重している		○非該当
●あり ○なし	2. 子どもと保護者の価値観や生活習慣に配慮した指導・援助を行っている		○非該当
●あり ○なし	3. 虐待防止や育児困難家庭への支援に向けて、職員の勉強会・研修会を実施し理解を深めている		○非該当
サブカテゴリー5の講評			
<p>子どもの自尊心や羞恥心に配慮し、関係機関との連携は保護者の同意のもとで行っている</p> <p>子どものプライバシーの保護や羞恥心の芽生えへの対応として、着替えの際には棚や机で目隠しを作り、外部の目を遮った環境で着脱できるようにしている。また着替えの援助の際には、上下を順に行い、全裸にならないようにするほか、自分で着替えられる子どもたちにも、着替え方について伝えている。排せつの失敗時にも小声で対応し、先に一人でトイレに行かせるといった個別の対応をするなど、日々の生活における子どもの自尊心や羞恥心への配慮に努めている。子どもの情報を関係機関と共有する場合には、事前に保護者の同意を得ることとしている。</p> <p>園全体で子ども一人ひとりを受容し、肯定的に関わることを、保育の基本に置いている</p> <p>毎週の学年会・全体会を中心に、子ども・クラスの日々の状況をクラス・保育者間で共有し、個別配慮が必要な園児を含め、一人ひとりを園全体で見守る体制の基盤としている。それぞれの子どもの特長や育ちの状況・成育歴は、入園時とその後の園生活を通じて随時把握し、各家庭の育児の方針や生活習慣なども、同様に継続的に確認し、支援に活かしている。また「やはたみずのとう幼稚園の職員として」に、一人ひとりの子どもを肯定的に受けとめ、発言や発想を否定することなく、心情に寄り添って関わることなどを明記し、入職者に徹底を促している。</p> <p>虐待等の早期発見に努め、関連の法令等の改正を回覧によって現場に周知させている</p> <p>上記のやはたみずのとう幼稚園の～は、毎年度更新し、組織内で確認することとなっている。また毎日の送迎時の保護者と子どもの様子や、子どもの衣服の着脱などの際の、外傷の有無や清潔面の確認などから、保育者が虐待等の予兆の発見に努め、異変が見られた場合は組織内で報告・検討のうえ、必要に応じ行政機関との連携を図ることとなっている。今年度の虐待関連の法令等の改正は、回覧によって職員に周知させており、区作成のマニュアルも常備している。同マニュアルの確認をはじめ、虐待等の防止に関する知見を組織的に高める取組も期待される。</p>			

サブカテゴリー6		サブカテゴリー毎の標準項目実施状況	5/5
6 事業所業務の標準化			
評価項目1 手引書等を整備し、事業所業務の標準化を図るための取り組みをしている		評点(〇〇〇)	
評価	標準項目		
●あり ○なし	1. 手引書(基準書、手順書、マニュアル)等で、事業所が提供しているサービスの基本事項や手順等を明確にしている		○非該当
●あり ○なし	2. 提供しているサービスが定められた基本事項や手順等に沿っているかどうか定期的に点検・見直しをしている		○非該当
●あり ○なし	3. 職員は、わからないことが起きた際や業務点検の手段として、日常的に手引書等を活用している		○非該当
評価項目2 サービスの向上をめざして、事業所の標準的な業務水準を見直す取り組みをしている		評点(〇〇)	
評価	標準項目		
●あり ○なし	1. 提供しているサービスの基本事項や手順等は変更の時期や見直しの基準が定められている		○非該当
●あり ○なし	2. 提供しているサービスの基本事項や手順等の見直しにあたり、職員や保護者等からの意見や提案、子どもの様子を反映するようにしている		○非該当
サブカテゴリー6の講評			
勤務するうえでの基本的な事柄を文書化し、職員に周知させている 「やはたみずのとう幼稚園の職員として」に、子どもへの関わりや保護者対応、日常の勤務や身だしなみ・SNS利用、執務中の持ち物などに関する各種心得・ルールを定めている。また保護者や外来者への対応、電話対応の際の具体的な受け答え、園庭の各所や1・2階のテラス等での環境管理や子どもへの援助、清掃や休憩・会議などの原則的な実施時間・曜日、ゴミの出し方など、勤務するうえでの基本的な事柄も明記している。入職者にはこれをもとに初期教育を行うとともに、内容は毎年度確認・更新し、年度開始時に組織内で確認することとしている。			
安全・保健衛生面に関する各種手引書の作成と、関連の訓練等がなされている 上記のほか、防災・防犯の各対応マニュアルを作成するほか、毎月の避難訓練や年3回の不審者対応訓練により、災害・不審者への対応を確認している。またケガ発生時の処置・通報のフローや、口腔内のケガ・虫刺され・病院受診時の対応・手順、水遊び時の事故防止などについても、手引書を作成・常備している。水遊び時の安全対策は、熱中症対策とともにシーズン開始前に組織内に周知させ、感染症が流行する時季の前には、嘔吐物処理手順を動画視聴などを交えて確認している。エビベン・けいれん座薬の取り扱いについても、定期的に確認している。			
手引書類を各所に掲示し、子どもの様子や保護者・現場の声を踏まえた改善に努めている 1・2歳児室と5歳児室には緊急時の諸対応、1階のトイレにはバケツの使用法、5歳児室や2歳児親子クラスに都作成のアレルギー対応のマニュアルを掲示するなど、必要箇所に各種手順を示し、職員の確実な対応を促している。また毎週・毎月の各会議で、子どもやクラスの状況や活動内容などを話し合い、各種計画や室内環境などを随時見直すとともに、行事後には保護者から募った感想と併せて振り返りを行い、次回の企画に活かしている。毎年度行う園内研修でも、保育活動などに関する実践的な研鑽に取り組み、活動・環境両面の質の向上に努めている。			

Ⅲ サービスの実施項目(カテゴリ-6-4)

		サブカテゴリ-4	
サービスの実施項目		サブカテゴリ毎の標準項目実施状況	36 / 36
1 評価項目1 子ども一人ひとりの発達の状態に応じた指導・援助を行っている		評点(000000)	
評価	標準項目		
●あり ○なし	1. 発達の過程や生活環境などにより、子ども一人ひとりの全体的な姿を把握したうえで指導・援助している	○非該当	
●あり ○なし	2. 子どもが主体的に周囲の人・もの・ことに興味や関心を持ち、働きかけることができるよう、環境を工夫している	○非該当	
●あり ○なし	3. 子ども同士が年齢や文化・習慣の違いなどを認め合い、互いを尊重する心が育つよう配慮している	○非該当	
●あり ○なし	4. 特別な配慮が必要な子ども(障害のある子どもを含む)の教育・保育にあたっては、他の子どもとの生活を通して共に成長できるよう指導・援助している	○非該当	
●あり ○なし	5. 発達の過程で生じる子ども同士のトラブル(けんか・かみつき等)に対し、子どもの気持ちを尊重した対応をしている	○非該当	
●あり ○なし	6. 小学校教育への円滑な接続に向け、小学校と連携をとって、指導・援助している	○非該当	
評価項目1の講評			
<p><b>子どもの主体性を尊重する、環境構成や援助の工夫に取り組んでいる</b></p> <p>子どもの発達や興味・関心を、職員間で話し合い、子どもの主体性を尊重する環境構成の工夫や援助に活かしている。低年齢児の微細運動の発達を意識した玩具の提供や、3歳以上児の興味・関心を広げる素材提供など、発達の過程に応じた環境を用意している。訪問調査当日には、3歳児室には自分のことを自分でできるよう、補助としてイラストを用いた視覚情報が掲載されており、これらは子どもの状態を見ながら、1年間をかけて徐々に数を減らしている。保育者は子どもの意思や意欲を尊重し、必要に応じて手を出し過ぎない援助や助言に努めている。</p> <p><b>異年齢交流を通じた社会性の伸長と、多様性を認め合う心の育みを支援している</b></p> <p>自由遊びの時間には、異年齢での関わりが日常的に持たれ、年上児が年下児を世話し、年下児が成長へ憧れを持つ関係性が、責任感や思いやりの気持ちの育ちにつながられている。訪問調査当日も、年齢の異なる子どもたちが、園庭で自由に遊び、関わる様子が見られている。子どもたち一人ひとりが、それぞれに違い、それぞれに皆思いを持っていることを、関わる園の大人たちが肯定し、認める姿勢を示すことで、互いを受け入れる心が育まれると考えており、集団の一員としての自覚を持ちながら、互いの存在を肯定し合える環境づくりを大切にしている。</p> <p><b>子どもの発達や特性、育ちの連続性を踏まえた援助や支援を行っている</b></p> <p>子ども同士のトラブルの際には、保育者が双方の思いを聴き取り、発達段階に応じて、代弁したり、話題を整理したりしながら、相手に伝える言葉や解決の方法を教えることで、自律的な調整力を養っている。特別な配慮が必要な子どもへの対応では、子どもの様子を職員間で共有するとともに、巡回指導時の専門家の助言を活かしながら、集団の中での育ちを支援している。小学校教育への円滑な接続に向け、5歳児の学校訪問や小学生との交流、合同の体験授業など、小学校と密な連携を図っており、期待感を持って就学を迎えられるよう援助している。</p>			

2 評価項目2 子どもの生活が安定するよう、子ども一人ひとりの生活のリズムに配慮した教育・保育を行っている		評点(〇〇〇〇)
評価	標準項目	
●あり ○なし	1. 登園時に、家庭での子どもの様子を保護者に確認している	○非該当
●あり ○なし	2. 発達の状態に応じ、食事・排せつなどの基本的な生活習慣の大切さを伝え、身につくよう指導・援助している	○非該当
●あり ○なし	3. 休息(昼寝を含む)の長さや時間帯は子どもの状況に配慮している	○非該当
●あり ○なし	4. 降園時に、その日の子どもの状況を保護者一人ひとりに直接伝えている	○非該当
評価項目2の講評		
<p>登降園時には、家庭との丁寧な情報共有に努め、子どもの育ちを支援している</p> <p>登園時には視診を行って、子どもの顔色や機嫌、見える範囲の傷の有無を確かめるほか、保護者から子どもの体調や家庭での様子を聴き取っている。子どもの健康状態や保護者からの伝達事項を職員間で共有し、援助や保育・教育に活かしている。また降園時には「連絡投票カレンダー」や写真を交えた「ドキュメンテーション」を活用し、1日の遊びの姿や成長エピソードを一人ひとりに直接伝えており、日々の丁寧な対話を通じて家庭での育ちを共有し、保護者と足並みを揃えて子どもの成長を支えられるよう努めている。</p> <p>発達段階に応じた生活習慣の習得に向け、子どもの意欲を尊重する援助を行っている</p> <p>食事・排せつや着脱などの基本的な生活習慣の自立に向け、発達の段階に応じた援助を行っている。排せつの自立への援助では、個々の排尿間隔等の身体機能の発達状況や意欲を把握してトイレに誘うところから始め、シールを活用するなどトイレに親しめる工夫もを行っている。衣服の着脱への援助では、ボタンや袖通しなど必要な動作を、日々の生活や体操の時間を通じて習得できるよう援助している。これらの援助では、できたことを子どもとともに喜び、子どもの「自分でやりたい」という意欲を尊重しつつ、家庭と連携しながら進めていくことを大切にしている。</p> <p>子どもの疲労や体調に応じて休息を取れるよう配慮している</p> <p>午睡の時間は1・2歳児を中心に設定し、睡眠状況や疲労度に合わせて起床時間を調整するなど、個々の状況に応じた休息が取れるよう配慮している。眠くない子どもや早く起きた子どもには、静かに過ごせる環境を提供し、無自覚のうちに蓄積する疲労を軽減できるような援助している。在園時間が長くなる子どもの健康状態は、視診や検温により適宜確認し、換気や温湿度管理、水分補給を徹底している。子どもの生理的欲求や疲労に応じ、健やかに過ごせる生活リズムの保障に努めている。</p>		

3 評価項目3

日常の教育・保育を通して、子どもの生活や遊びが豊かに展開されるよう工夫している

評点(〇〇〇〇〇〇)

評価	標準項目	
●あり ○なし	1. 子どもの自主性、自発性を尊重し、遊びこめる時間と空間の配慮をしている	○非該当
●あり ○なし	2. 子どもが、集団活動に主体的に関われるよう指導・援助している	○非該当
●あり ○なし	3. 子ども一人ひとりの状況に応じて、子どもが言葉(発声や喃語を含む)や表情、身振り等による応答的なやり取りを楽しみ、言葉に対する感覚を養えるよう配慮している	○非該当
●あり ○なし	4. 子どもが様々な表現を楽しめるようにしている	○非該当
●あり ○なし	5. 戸外・園外活動には、季節の移り変わりなどを感じとることができるような視点を取り入れている	○非該当
●あり ○なし	6. 生活や遊びを通して、子どもがまじりの大切さに気付き、自分の気持ちを調整する力を育てられるよう、配慮している	○非該当

評価項目3の講評

主体的に遊び込める時間と空間の保障と、子どもの発想を広げる援助に努めている

子どもの自主性・自発性を尊重し、午前中の主活動後に自由保育の時間を設けるほか、設定保育中も子どもの興味を採り入れることで、主体的に取り組むことができるようにしている。制作コーナーには多様な素材を用意し、子どもの発想を形にできるような環境を工夫している。保育者は、子どもの発見や工夫に共感的にตอบสนองし、必要以上の関わりを控え、子どものさらなる遊びへの広がりを促したり、子ども自身がヒントをほしがっていたりする時には、参考となる画像や素材を提示するなど、遊びを深めるための助言や提案などを行うようにしている。

日常の言語活動と表現遊びを通じて、伝え合う力を育てている

絵本や紙芝居の読み聞かせ、手遊び、季節の歌を日常的に採り入れることで、言葉のリズムや響きなどの感覚を身につけられるようにしている。朝の会では発見や体験を発表する機会を設け、自らの思いを表現し、他者の話を聴く姿勢を養っている。自由制作で作ったものを使った見立て遊び、合奏や劇遊びを通じて多様な表現を楽しんでおり、行事への取組でも、本番に向けて仲間とイメージを共有しながら創り上げる喜びを味わえるよう支援している。また、ひらがなのワークや日記帳の活用などを通じて、文字への興味や伝えたいという気持ちを高めている。

戸外活動を通じて季節や自然に触れ、挨拶や気持ちの整理など、心の成長を促している

園庭の芝生の上を裸足で過ごし、四季の移り変わりや自然の感触を肌で感じられるよう、日々の活動を行っている。近隣の哲学堂公園や図書館などへの散歩では、地域の人の挨拶や交通ルールを通じて社会性を育み、散歩先で収集した自然物を使って見立て遊びを楽しんだり、制作に活用したりする取組もなされている。戸外でのリレーやルールのある遊びでは、決まり事の必要性を伝え、負けた時の気持ちの整理や、次への意欲につながるよう援助し、自由な中にも守るべき決まりがあることに気づき、自分を律する力を育てられるよう声かけを行っている。

4 評価項目4 日常の教育・保育に変化と潤いを持たせるよう、行事等を実施している		評点(〇〇)
評価	標準項目	
●あり ○なし	1. 行事等の実施にあたり、子どもが興味や関心を持ち、自ら進んで取り組めるよう工夫している	○非該当
●あり ○なし	2. みんなで協力し、やり遂げることの喜びを味わえるような行事等を実施している	○非該当
評価項目4の講評		
<p>行事は日常の延長に位置づけ、興味・関心を起点とした活動となるよう取り組んでいる</p> <p>行事への取組は、日常の遊びの延長線上にあるものと位置づけ、子どもが目標に向かって自ら進んで取り組み、期待感を持って当日を迎えられるような動機づけを行っている。子どもが興味・関心を高められるよう、導入段階から絵本や調べ学習を活用しており、作品展でのゲームセンター作りでは、子どものアイデアを尊重し、制作過程での子ども同士のやり取りのほか、活動そのものを楽しめるよう配慮している。発表会の劇の練習の過程では、写真や動画を用いて子どもたちと振り返り、助言し合ったり、自身の成長を感じたりできるようにしている。</p> <p>仲間と協力し、やり遂げる喜びを味わう行事を企画・実施している</p> <p>子どもたちが行事を通じ、協力することの心地よさや、やり遂げたことへの自己肯定感を育めるよう支援している。運動会でのパラバルーンや組み立て体操は、一人ではできないことを仲間と協力して成し遂げる演目として取り組み、達成感を子どもたちにもたらされている。「お泊まり保育」では、夕食作りやレクリエーションを友達とともに行い、自立心と親近感を育てている。発表会での合奏や劇においても、配役や演出を子どもたちと話し合いながら決定し、意見を出し合ったり、教え合ったりしながら、一つの作品を創り上げる過程を大切にしている。</p> <p>地域や伝統文化への理解を深め、思い出を共有する行事の余韻を大切にしている</p> <p>ひな祭り・七五三・餅つきなどの季節感のある日本の伝統行事に取り組んでおり、由来や願いを伝え、遊びや制作・歌、食事など複数の活動を関連させ、文化体験の機会としている。芋掘り遠足や消防署見学や外部講師による科学教室など、本物に触れる体験を行事に採り入れ、好奇心を刺激している。行事後は余韻を楽しめるよう、思い出を絵に描いたり、制作した物で遊びを継続したりする工夫にも取り組んでおり、行事によっては、保護者の参加も呼びかけ、親子で喜びや驚きを共有できるようにするなど、園生活の豊かな思い出となるよう配慮している。</p>		

5 評価項目5 在園時間の異なる子どもが落ち着いて過ごせるような配慮をしている		評点(〇〇〇)
評価	標準項目	
●あり ○なし	1. 在園時間の異なる子ども同士が楽しく遊べるよう配慮をしている	○非該当
●あり ○なし	2. 在園時間の長い子どもが安心し、くつろげる環境になるよう配慮をしている	○非該当
●あり ○なし	3. 在園時間が長くなる中で、保育形態の変化がある場合でも、子どもが楽しく過ごせるよう配慮をしている	○非該当
評価項目5の講評		
<p><b>認定の壁を感じさせない遊びの保障に努めている</b>                  認定区分に関わらず、子どもが好きな遊びを見つけ、仲間の輪に入って楽しく遊べるよう、職員は適切な仲立ちに努めるとともに、すべての子どもが平等に園生活を楽しめるよう、活動内容や環境構成の工夫に取り組んでいる。認定の壁を感じさせない遊びの保障に配慮しており、1号認定の子どもたちの教育時間終了後も、2号・3号認定の子どもとともに過ごす環境を設けるなど、同年齢・異年齢での関わりを自然に持てるようにしている。また1号児が残る際は、2号児の部屋へ移動して私服に着替え、気持ちの切り替えができるようにしている。</p> <p><b>長時間在園児の心身の安定を図る、休息の確保や心情面の援助に取り組んでいる</b>                  夕方以降は、子どもの心身の疲労を考慮し、ゆったりとくつろげる環境づくりを心がけており、玩具の数を調整したり、お絵描きなどの落ち着いた遊びを提供したりしている。1・2歳児の部屋には、畳コーナーを設け、横になって休息を取るなど、家庭のようなリラックスして過ごせるようにしている。迎えを待つ間の子どもの不安感にも配慮し、スキンシップを図って安心できるようにするなど、心情の寄り添いに努めている。18時頃には、栄養補給と空腹によるストレスの軽減を目的に、おにぎり等の補食を提供している。</p> <p><b>保育形態の変化に伴う、子どもの不安軽減と活動のメリハリの工夫に努めている</b>                  教育時間の終了後、長時間保育へと切り替わる際、担当職員が「おかえり」と迎えるなど、雰囲気の変化を子どもが楽しめるよう配慮している。子どもの健康や情緒等の情報は職員間で共有し援助に活かしている。日中の集団活動とは異なるじっくりとした読み聞かせや、職員の手伝いといった変化を採り入れている。週の後半や夕方の疲労を考慮し、活動の動と静のバランスを調整している。また1日の流れの中にメリハリを持たせることで、子どもが飽きずに活動できるようにしている。</p>		

6 評価項目6 子どもが食事を楽しめるよう配慮している		評点(〇〇〇〇〇)
評価	標準項目	
●あり ○なし	1. 子どもが楽しく、落ち着いて食事をとれるような雰囲気作りに配慮している	○非該当
●あり ○なし	2. 園で提供する食事は、メニューや味付けなどに工夫を凝らしている	○非該当
●あり ○なし	3. 子どもの体調(食物アレルギーを含む)や文化の違いに応じた食事を提供している	○非該当
●あり ○なし	4. 食についての関心を深めるための取り組み(食材の栽培や子どもの調理活動等)を行っている	○非該当
●あり ○なし	5. 保護者や地域の多様な関係者との連携及び協働のもとで、食に関する取り組みを行っている	○非該当
評価項目6の講評		
<p><b>自園調理を活かした食の意欲向上と、楽しい食事の雰囲気づくりに努めている</b>                  園内調理ならではの温かい食事の提供に努めるほか、献立はさまざまな料理を体験できるものとし、栄養価やバランスに加え、彩りや季節感を考慮している。食前には献立の紹介やクイズ、食にまつわる絵本を通じて食への意欲を高め、職員とともに食べることで、おいしさを共感し合える雰囲気づくりに努め、好き嫌いに対しても、無理強いせず一口チャレンジを誉めるなど、楽しい食体験となるよう配慮している。栄養士は喫食状況を確認し、味つけや切り方の改善に活かしており、ワゴンで運ぶ際には、調理職員と子どもが直接感謝を伝え合う機会を設けている。</p> <p><b>食材への興味を深める多様な体験活動と、栽培から収穫、調理の体験の機会を設けている</b>                  園庭の畑でジャガイモや夏野菜を栽培し、土作りから苗植え・水やりまで、子どもたちが主体的に関わっている。収穫した野菜をポテトチップスに調理して味わったり、断面を観察して野菜スタンプにしたりするなど、食材に親しむ機会を多様に設けている。園庭の樹木に成る柿やヤマモモなどの果物も自分たちで収穫し、調理・加工して食べる経験を通じて、自然の恵みへの理解を深めるなど、本物の食材に触れ、育てる喜びと食べる喜びを一体的に体験している。5歳児の「お泊まり保育」の際には、食材の買い出しや、調理器具を用いた調理の体験をしている。</p> <p><b>家庭・地域との連携による食文化の継承に取り組み、アレルギー対策にも努めている</b>                  上記に加え、行事に応じた特別メニューの提供や、餅つきでの保護者の協力、買い物体験を通じた地域との関わりなど、食を通じた豊かな学びを展開するほか、食材と栄養素の関係についても伝える機会を設けている。また毎月の献立表や食育便りを通じ、家庭での健康な食生活を支える情報発信にも取り組んでいる。食物アレルギーのある子どもには、個別面談や書類で状況を把握し、除去食の提供を行っており、色の違う食器やラップの使用と名入れ、提供までの各段階における複数名での確認など、誤食防止の対策を講じている。</p>		

7 評価項目7 子どもが心身の健康を維持できるよう指導・援助している		評点(〇〇〇)
評価	標準項目	
●あり ○なし	1. 子どもが自分の健康や安全に関心を持ち、病気やけがを予防・防止できるように指導・援助している	○非該当
●あり ○なし	2. 医療的なケアが必要な子どもに、専門機関等との連携に基づく対応をしている	○非該当
●あり ○なし	3. 保護者と連携をとって、子ども一人ひとりの健康維持に向けた取り組みを行っている	○非該当
評価項目7の講評		
<p><b>自分の身体を自分で守る力を育む、保健指導と安全教育を実践している</b></p> <p>手洗いやうがいの指導では、手順だけでなく「バイキンをやっつける」といった意味を伝え、自発的な行動を促している。ケガをした際には痛みに寄り添いつつ、落ち着いた後に再発防止策を自ら考えられるよう問いかけを行っている。警察署との連携による不審者訓練では「いかのおすし」の標語を使いながら、非常時のポイントを教えるほか、毎月の防災訓練でも、自分の身を守るための姿勢や行動を繰り返し伝えている。また園外活動の際には、交通ルールを指導し、安全な歩き方や確認のポイントを教え、警察による交通安全教室も実施している。</p> <p><b>医師等と連携し、保健的な配慮を行うほか、緊急時に備えた対応訓練を実施している</b></p> <p>嘱託医による定期健診のほか、随時の医療相談体制を整え、子どもの健康維持に努めている。食物アレルギーや熱性けいれん等、個別の保健的な配慮が必要な場合は、医師の指示に基づき、保護者や栄養士との密な連携を図って対応している。主治医からの情報は家庭経由で把握し、日々の援助の参考にするなど、個別のニーズに即した健康管理を行っている。不審者対策訓練を実施し、警察署による来園指導がなされるほか、消防署による心肺蘇生訓練を設け、防災訓練では災害時の職員・子どもの動きを確認するなど、緊急時の対応訓練を行っている。</p> <p><b>清潔で安全な環境の維持に向けた対策を講じ、家庭への情報発信を行っている</b></p> <p>子どもの健康の維持・増進に向け、登園時の視診を行い、適宜の検温に加え、猛暑時には外出を自粛している。午睡時のSIDS対策として、呼吸の有無や身体の向きを定期的に確認している。また施設内や玩具の消毒、換気、温湿度の管理を行い、感染症の流行防止と健やかな環境維持に努めている。入園時には保護者に対し、集団生活における留意点や園の保健・衛生の取組を説明するほか、毎週のお知らせや保健便りを通じ、流行の病気や家庭での予防策、早寝・早起き・朝ご飯の重要性を発信し、保護者の健康意識の向上を支援している。</p>		

8 評価項目8 保護者が安心して子育てをすることができるよう支援を行っている		評点(00000)
評価	標準項目	
●あり ○なし	1. 保護者には、生活形態や子育ての考え方の違いなど、個々の事情に配慮して支援を行っている	○非該当
●あり ○なし	2. 保護者同士が交流できる機会を設けている	○非該当
●あり ○なし	3. 保護者と職員の信頼関係が深まるような取り組みをしている	○非該当
●あり ○なし	4. 子どもの発達や育児などについて、保護者との共通認識を得る取り組みを行っている	○非該当
●あり ○なし	5. 保護者の養育力向上のため、園の教育・保育の活動への参加を促している	○非該当
評価項目8の講評		
<p>保護者のニーズや背景に配慮した、きめ細やかな個別支援と対話に努めている</p> <p>入園時の調査票や面談を通じ、保護者の就労状況、家庭の事情、育児観を把握し、個々の事情に寄り添った援助・支援に努めている。日々の送迎時における対話を重視し、子どもの様子だけでなく、保護者の気持ちにも寄り添う姿勢を大切にしており、希望に応じて適宜面談の機会を設けている。食物アレルギーや熱性けいれん等の体質や発達の特性など、個別の配慮が必要な場合には、面談等を通じて認識を共有し、対応について話し合っている。1号認定児については、家庭訪問を実施して、生活環境を把握し、信頼関係の基盤を築けるようにしている。</p> <p>保護者同士の交流を促す多彩な機会の提供と、ともに楽しむ行事を企画している</p> <p>園が地域の子育ての拠点として機能することを目指し、保護者同士が交流できる機会をさまざまに設けている。入園式、進級後の保護者会では、職員の自己紹介だけでなく、保護者同士が交流できる自己紹介タイムを設け、親睦を深められる機会としている。親子遠足や保護者が保育に参加する「プレイデー」は、保護者同士が育ちを語り合い、仲間作りをする貴重な場となっている。餅つき大会でのパパ・おじいちゃん協力や、父母の会主催のバザーなど、保護者が主体的に園に関わるようにしており、コミュニティを形成するきっかけにもなっている。</p> <p>園の教育・保育への理解と共感を深める、多角的な情報発信の工夫に取り組んでいる</p> <p>保護者との信頼関係を築けるよう、情報発信に取り組んでいる。日々の生活や教育面の情報は、送迎時の対話や連絡帳のやり取りに加え、毎週金曜日には、年齢別の活動内容を写真に文章を添えて配信している。学年のものだけではなく、全学年分を送信し、他学年の活動も見られるようにしている。1・2号認定世帯用の「お知らせしたいこと」、3号認定世帯用の園便りを毎月発行し、子どもの様子や連絡事項などを発信している。保護者会では、1年間の育ちの見通しや園の教育理念について、具体例を交えて説明し、共感を得られるよう努めている。</p>		

9 評価項目9 地域との連携のもとに子どもの生活の幅を広げるための取り組みを行っている		評点(〇〇)
評価	標準項目	
●あり ○なし	1. 地域資源を活用し、子どもが多様な体験や交流ができるような機会を確保している	○非該当
●あり ○なし	2. 園の行事に地域の人々の参加を呼び掛けたり、地域の行事に参加する等、子どもが職員以外の人と交流できる機会を確保している	○非該当
評価項目9の講評		
<p>多様な社会資源の活用による、子どもの好奇心と社会性を育む体験の機会を設けている</p> <p>地域を含む園外の資源を、保育の教材として有効に活用し、豊かな学びにつなげられるよう、さまざまな活動を行っている。哲学堂公園・歴史民俗資料館・図書館への散歩や見学のほか、川越での芋掘りなども行い、自然・文化・公共ルールにふれる機会を積極的に採り入れている。またスーパーでの食材の買い物体験や消防署見学、消防署・警察署の職員による訓練など、実社会の仕組みを肌で感じる活動を展開している。散歩中に出会う地域の人々との挨拶や交流は、子どもたちの社会的な視野を広げ、地域に見守られているという安心感につながっている。</p> <p>地域社会とのつながりを意識し、多様な人と関わる機会がさまざまに設けられている</p> <p>地域社会とのつながりを意識し、子どもが職員以外の大人や学生、お兄さん・お姉さんなど、多様な人と生活の中で関わりを持っている。中学生の職場体験や実習生の積極的な受け入れを行い、子どもたちが若者とふれ合い、ともに遊ぶ経験を大切にしている。また高等学校の教員による科学教室や専門家による獅子舞、警察官・消防士の来園など、多様な職種や専門性を持つ人から直接教わる機会も設けられている。園のバザーや行事には、卒園生や地域の人を招待し、多世代交流の場を提供している。</p>		

事業者が特に力を入れている取り組み①		
評価項目	6-4-9	地域との連携のもとに子どもの生活の幅を広げるための取り組みを行っている
タイトル①	地域資源を積極的に活用して、未知なる世界への好奇心と探究心を刺激している	
内容①	近隣の哲学堂公園での自然探索や、歴史民俗資料館への訪問、図書館の利用など、地域全体を学びのフィールドとして活用している。特に高校の科学の教員による実験教室では、日常の不思議に触れることで、科学的な思考の基礎となる「なぜだろう」という探究心や観察力を養っている。消防署見学や警察官による安全指導、神社から訪れる専門家による獅子舞など、本物の専門家や地域の人々とふれ合う機会も設けるなど、地域に見守られ、実社会の多様な価値観に触れる体験は、子どもたちの社会的な視野を広げ、知的な好奇心の育ちを後押ししている。	

事業者が特に力を入れている取り組み②		
評価項目	6-4-8	保護者が安心して子育てをすることができるよう支援を行っている
タイトル②	多角的な情報発信と参加型行事を通じて、保護者とともに育ちを喜び合っている	
内容②	一人ひとりの個性を踏まえた援助や支援を通じて、子どもの可能性を引き出せるよう、子どもの成長を保護者と共有するための取組をさまざまに行っている。毎週金曜日に全学年へ配信される「お知らせ」では、写真と保育者の解説により、日々の活動や子どもの育ちを伝えている。保護者が保育に直接参加する「プレイデー」や、伝統的なお餅つき大会なども、園と家庭が一体となって子どもを育む意識を高める大切な機会となっているほか、個人面談では家庭での子どもの様子を聴き取り、園での様子を伝えるなど、子どもの成長をともに喜び合う場としている。	

事業者が特に力を入れている取り組み③		
評価項目	5-2-1	組織力の向上に向け、組織としての学びとチームワークの促進に取り組んでいる
タイトル③	体験・探求型の園内研修を通じ、実践の視点で保育の学びと組織の同僚性を高めている	
内容③	毎年度設ける園内研修では、現場から募ったテーマをもとに企画しており、今年度は運動遊びについて学んでいる。運動遊びの意義や主な種類などを確認したうえで、参加者がグループに分かれ、活動内容や配慮点などを計画書にまとめ、ワークショップ形式での実践と、振り返り後の発表を行っており、各人の発想を活かした運動遊びの質・量両面の充実や、必要な工夫・配慮等の共有を図っている。昨年度は自由遊びの環境設定について、実践や教材研究に取り組んでおり、いずれも話し合いと体験によって学びを深めながら、チームとしての同僚性も高めている。	

No.	特に良いと思う点	
1	タイトル	異年齢児の関わりによって、子どもたちの社会性や成長への憧れを育み、日々の園生活を豊かなものとしている
	内容	子ども同士が教え合い、学び合う「育ち合い」の文化が、園の大きな特色となっている。園庭では日常的に異年齢で交流する姿が見られており、相手の様子を踏まえながら遊び方を教えたり、まねたりするなど、年齢相互の育ち合いが促されている。行事への活動においても、年上児が年下児にリレーのバトンパスを教えたり、作品展では、年下児に遊び方を教えたりしている。また4・5歳児では、年間を通じてペアを作り、一緒に遊ぶ時間を設けるほか、年度末には4歳児が3歳児に対して、次年度の部屋の使い方を説明したりするなどの取組も採り入れられている。
2	タイトル	子どもたちがイメージをふくらませながら、表現することを楽しむ取組をさまざまに採り入れ、創造性や表現力の伸長を促している
	内容	絵本からイメージをふくらませて共同制作を行い、その世界観の中でごっこ遊びを楽しんだり、作品展に向けたゲームセンター作りでは、自分たちのアイデアを出し合い、試行錯誤して作り上げる喜びを味わったりしている。今年度4歳児で採り入れたペア制作や劇遊びでの物語作りでは、イメージを話し合っ、思いを形にする体験をしている。また卒業制作では一人一冊の絵本作りに取り組み、過去の作品を参考にしながらストーリーを自作しており、保育者はインタビューを通じて子どもの思いを引き出し、対話を重ねながら物語にする過程を大切にしている。
3	タイトル	季節の移ろいや自然の不思議を感じる中で、豊かな情緒や科学的な思考、観察力を育めるよう、さまざまな活動を行っている
	内容	園庭の樹木になる柿やヤマモモを収穫して味わったり、畑でジャガイモや夏野菜を栽培したりと、実体験を伴う食育活動が活発に行われている。土作りから苗植え、水やりまでを自分たちで行い、収穫した野菜を調理して食べる経験は、自然の恵みへの感謝と生命の尊さを学ぶ貴重な機会となっている。また戸外での活動は、四季折々に変化する草木や自然現象に出会い、自然の不思議に触れる機会にもなっているほか、高校の教員による科学実験も採り入れており、仮説を立てて考える体験を通じて、子どもたちの科学的な思考の基礎を育てている。
No.	さらなる改善が望まれる点	
1	タイトル	園の「当たり前」から「押しポイント」を掘り起こし、それに対する自覚を組織全体で深めることで、内外への発信に活かすことを期待したい
	内容	訪問調査では、園庭でさまざまな年齢の子どもたちが関わり、楽しくふれ合う様子が観察されている。そうした生活の中での異年齢の自然で豊かな関わりは、対外的には必ずしも意識的に発信されていないが、いわゆる差別化要素となりうる魅力が、園の日常の中に埋もれていないか、検証してみることも一考されたい。園や職員にとっての「当たり前」を利用者目線でもとらえ直し、組織全体で園の価値の掘り起こしと共有を図ることは、入園前家庭等への広報・発信に加え、職員の保護者への保育の伝え方にも、好影響をもたらす効果が期待できるのではないか。
2	タイトル	「中期計画」に定める今後の運営や体制の見直しなどについて、経営面では安定が保たれる現況を好機ととらえ、検討に取り組みされたい
	内容	少子化の影響により、当園の園児数も減少傾向にあるが、経営層は諸般の状況に鑑み、経営面では引き続き安定が得られているととらえている。今年度策定の「中期計画」には、今後の内外の情勢を踏まえ、運営や体制の見直しにも取り組むことを定めており、行政等から今後の情勢に関する情報も得ながら、中・長期的な園経営のロードマップを、具体的に検討することも期待される。教育・保育の拠点として地域に根を下ろし続けるうえで、また職員が将来像を描き、働き続ける場として、安定的な経営基盤が保たれる現況を活かし、検討に取り組みされたい。
3	タイトル	働く環境や育成について、現場との相互理解や仕組みの整備を進め、組織のエンゲージメントをより高めてゆくことが期待される
	内容	職員自己評価では、労働環境や処遇の面で、現場から課題が示されている。経営層もこれを踏まえ、職員への説明や行政への働きかけなど、対策を尽くしたいと考えている。また、上席者や先輩によるOJTや支援、随時の面談など、育成において行う取組を管理する計画等の書式や、職員の成長・キャリア形成等の長期的な目安となる、いわゆるキャリアパスの整備についても、検討を期待したい。それらの仕組みのもとでの職員との対話は、上記の経営層と各職員との相互理解や、評価・承認を各人に伝え、意欲を高める機会ともなるのではないかとと思われる。

